

# ちちぶたどり



2025年 第349号

◆令和7年 新年の挨拶	齋藤 晴美	2
◆特別支援寮開設にあたり	齋藤 晴美	3
◆ボランティアへの感謝状・職員表彰		4
◆100万人のクラシックライブコンサート	米光 恭祐	4
◆焼き芋会	阿部 萌	5
◆第2回秩父学園自閉スペクトラム症子育て支援セミナー	仲川 正徳	5
◆第2回研修報告会		6
◆各寮の様子 冬編	かりん寮 太田 夏子	6
	けやき寮 島田由起子	7
	どんぐり寮 清水 康平	7
	くぬぎ寮 中田 竜太	8
◆熊澤海道の「向かい風 反対向けば 超追い風！」		
「多職種連携ってしたいよね」	熊澤 海道	9
◆入所児童の動き・職員の動き・行事予定		9



# 令和7年 新年のご挨拶

国立障害者リハビリテーションセンター 自立支援局  
秩父学園 次長 齋藤 晴美

昨年中は、秩父学園に対しまして、多大なるご支援とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。秩父学園で生活している子ども達が、毎日、安心して過ごせる環境を提供できたのも、皆様のお力添えのおかげです。本年もどうかよろしく願いいたします。

今年のお正月は、入所児童と職員が、廃材や不要品などを活用し、日中活動で製作した立派な門松が学園の正面玄関に飾られました。また、入所児童と職員による手作りの鳥居や本殿、おみくじなどを配置した秩父学園神社が学園内に設置され、子ども達はどんぐりのお賽銭を入れたり、おみくじを引いたり、とても楽しい新年を迎えることができました。

秩父学園における日々の支援や活動は、国立障害者リハビリテーションセンター第三期中期目標（令和2年度～令和6年度）において、運営方針や組織目標を定め、計画的に実施されています。令和6年度は、この第三期中期目標の最終年度となります。

このため、今年度は第三期の取組を振り返り評価するとともに、来年度からスタートする第四期中期目標（令和7年度～令和11年度）の策定を行ったところです。

第四期中期目標では、以下の3つの柱立てを行い、

①支援が難しい知的障害児（特に強度行動障害を有する児童等）に対する先駆的・総合的支援

②地域生活移行に向けた支援の充実

③職員派遣、研修等による支援ノウハウの普及

来年度から計画的に取り組んでいくこととしています。

秩父学園に入所している子ども達に対し、成人後の生活を見据え、日々の支援を行うことや、子ども達が秩父学園を退園後、それぞれの地域に戻り、秩父学園での経験を活かし、自立した生活を送ることができるようアフターフォローを行っていくことはもとより、全国の知的障害児等を支援する事業所、保育所等の人材育成に向け、職員派遣等による支援者のサポートの充実、研修の受け入れを推進することで、国立施設の役割を果たせるよう積極的に取り組んでいきたいと考えております。

本年も保護者の皆様、関係機関の皆様と私ども秩父学園職員が共に、子ども達の未来を育てていく大切なパートナーとして、秩父学園の取組を応援していただきますようお願いいたします。



## 特別支援寮開設にあたり

国立障害者リハビリテーションセンター 自立支援局  
秩父学園 次長 齋藤 晴美

### ～強度行動障害のある

### 児童の受入の促進について～

秩父学園では、令和3年度から、第四期中期目標に掲げ、強度行動障害のある児童の積極的な受入れを行っていくこととしています。

現在、強度行動障害のある児童の受入れを推進していくにあたり、これまで、男子児童を受け入れていた「けやき寮」を特別支援寮として改修を行っています。

近年の資材高騰の影響等から、入札がなかなか整わず、工事の着工まで時間を要してしまい、この間、新たな児童を受け入れられず、ご不便をおかけしましたが、現在、工事は順調に進行しており、3月末には完了する予定です。

特別支援寮の円滑な運用開始に向けて、対象児童や受入にあたっての要件、具体的な申込み手続き、支援内容や退所後のアフターフォローなどのあり方について、特別支援寮開設準備委員会を立ち上げ、厚生労働省・こども家庭庁、すでに強度行動障害のある方の受入を行っている国立のぞみの園のご担当者におブザーバーとして参加していただき、ご助言をいただきながら、検討を進めているところです。

特別支援寮では、有期限（最長1年間）かつ有目的（行動障害の状態の軽減、標準的な支援の実践と支援情報の整理等）の集中的な支援に取り組むこととしています。受け入れる児童への支援に併せて、移行先の事業所の職員に対する秩父学園での研修なども実施できたらと考えております。

有期限（最長1年間）を待たずとも、アセスメントや支援方法が確立すれば、地元へ円滑に戻ることができるよう、地域機関や移行先との調整を進め、アセスメント結果や有効な支援方法等の引き継ぎを行い、移行していただきます。

秩父学園職員の移行先施設への派遣やリモートの活用による移行支援や勉強会、事例検討のほか、支援方法のアドバイスを行うなど、地域の支援体制のあり方について提案し、地域の支援体制整備を目指していきたいと考えています。

また、自宅復帰を考えると家族支援も必要であり、地域連携（自立支援協議会、児童相談所、市区町村、基幹相談支援センター、学校、放デイなど）を強化したアフターフォローを行うことも必要です。

加えて、これまで以上に、秩父学園に入所している児童が通う学校や、日頃から入所児童の健康に尽力いただいている秩父外来の医師をはじめとした医療機関との連携、職員のメンタルヘルスへの取組みも重要と考えております。特別支援寮の運用開始にあたっては、すでに多くの関係者の皆様にお力をお借りしておりますが、引き続き、ご助言ご指導をいただきながら、一つ一つ取組を進めていく所存です。その上で、特別支援寮での強度行動障害のある児童の受入を通じて、国立施設として、強度行動障害のある児童が地元で健やかに暮らせるよう、地域で支える施設・事業所や関係機関が自立して課題を解決できるよう支援していくという役割を果たしていきたいと考えています。





## ボランティアへの感謝状 職員表彰

今年度は、多くの感謝状・表彰状の授与がありました。

厚生労働省 社会援護局 障害保健福祉部長より、長年秩父学園のボランティアをしていただいている団体に、感謝状の授与式がありました。

また、職員の永年勤続30年2名、20年3名、埼玉県社会福祉大会会長表彰1名、社会福祉法人 全国社会福祉協議会会長表彰2名の表彰と、表彰ラッシュとなりました。ボランティアの皆様、ありがとうございました。各職員の方々おめでとうございます。



## 100万人のクラシックライブコンサート



令和6年12月26日(木)「一般財団法人100万人のクラシックライブ」によるクリスマスコンサートが開催されました。最初、緊張している様子があった児童たちも、演奏が始まるとあっという間に緊張がほぐれ、手拍子をしながらぐっと演奏に引きつけられていました。また、手拍子をするだけで、ただ静

かに聴くだけではなく、演奏家と一緒に音楽を楽しむ、参加する喜びを感じているようでした。中には、気分が高揚し、大きな声を出したり、飛び跳ねたりと全身で楽しんでいる児童もいました。こういった機会はないため、児童たちにとって大きな経験、財産になったと思います。



焼き芋会

1月7日に園内のセンソリーガーデンで焼き芋会が行われました。年末からセンソリーガーデンは「秩父神社」となっていて、鳥居や本殿、おみくじコーナーなどが設置され、お正月の気分を味わいながら焼き芋を楽しむことができました。今年は夏の酷暑の影響で園内の畑で育てていたサツマイモが不作となってしまったため、焼き芋会のために「いも街道」に行って珍しい白いサツマイモを仕入れてきました。当日は、ボランティアのみどりの応援隊さんが火おこしから焼き作業まで完璧に段取りをしてくださり、おいしい焼き芋が出来上がりました。白い焼き

芋を食べた子どもたちからは、「甘い！ホクホクしてる！」と嬉しい感想が。子どもたち、職員、ボランティアさん。冬休み最後の日、みんなで楽しいひと時を過ごすことができました。



令和6年度 第2回秩父学園自閉スペクトラム症子育て支援セミナー

秩父学園では自閉スペクトラム症やその他発達障害のある子どもへの療育の知識や支援方法を学ぶ目的として、「子育て支援セミナー」を年2回開催しています。今回、第2回秩父学園自閉スペクトラム症子育て支援セミナーとして、令和7年1月25日(土)に青森県立保健大学健康科学部社会福祉学科講師 NPO法人アスペ・エルデの会理事 田中 尚樹先生を講師としてお招きしオンラインにて行いました。

今回は「発達障害の子の性のルール～からだ・こころ・かんけいを育てる17のワーク～」というテーマで、お話を伺いながら、発達特性による理解の仕方から、性に関する事を知り、その上で自身の生活をどのように豊かにしていくかをお話いただきました。「性的話」となると、身体のことや性教育などが真っ先に思いつきますが、冒頭から時間をかけて、どうしたら理解出来るか、どうしたら伝わるかといった伝える相手の事を十分に理解した上で伝える、伝える方法の大切さをお話下さいました。療育を行っている現場の職員として、改めて基本の大切さを考えさせられました。

受講者の方々からも、「性教育というものが、直接的な性の部分についてのみ学ぶわけではなく、ひとりの人として周囲の人といい関係を気づき、よりよい人生につなげるために行うという部分に感銘を受けました。」「性教育という性的行動や身体の発達を考えてしまいましたが、そうではないということがわかりました。」「性教育が、性行為だけでなく、自分の権利を守り相手を尊重する教育であること。発達障害の子に関しては、様々な振る舞いも、「大人になれば自然に身につく」ではなく、「具体的に丁寧に教える」ということの大切さを改めて感じました。」等の感想が寄せられました。田中先生、本当にありがとうございました。

令和6年度 第2回 ご家族・支援者向け

**秩父学園自閉スペクトラム症 子育て支援セミナー**

**発達障害の子の性のルール**  
～からだ・こころ・かんけいを育てる17のワーク～

青森県立保健大学 健康科学部 社会福祉学科 講師   
**田中 尚樹 氏**

発達特性による理解の仕方から、性に関する事を知り、その上で自身の生活をどう豊かにしているかといったことをお話していただけます。

**日時** 令和7年1月25日(土) 13:30～15:30

**対象者** 自閉スペクトラム症及び知的・発達障害のあるお子さんのご家族・保育士・福祉施設職員・医療関係職員・教職員・行政職等

**定員** 60名  
※定員以上の応募があった場合、抽選の上受講決定させていただきます

**費用** 1,000円 (セミナー終了後に納入券をお送りしますので 領収書をお送りいたします)

**会場** オンライン開催(ご自宅・職場などでの受講となります)  
※遠日録画配信のみOKです。

※Web会議ツール「Zoom」を使用したオンラインセミナーです。インターネット接続環境、PC・タブレット・スマートフォンも推奨です。

**お申し込み**  
・受講申込書をメールにてお送り下さい。  
・1枚の申込書につき1名の受講申し込みとなります。  
・申し込み締め切りは令和7年1月20日(金)となります。

# 令和6年度 第2回 研修報告会

令和7年1月31日、第2回研修報告会が開催されました。今回の研修報告会の大きな特徴は、今年度採用の職員3名が各々見学して来たことや研修を受けて来た事を発表しました。人前での発表は、緊張し声も震えたり、小さくなったりもしますが、3名とも堂々とした姿勢で発表出来ました。

運営側では、中堅職員2名が第1回報告会の反省を踏まえ、事前準備、当日の司会進行を滞りなく進めることも出来ました。

園内での研修が盛んになってきた昨今、今度は自身での発表を何処まで出来るか、多くの発表の場を

作りながら、外への発信も進めていけると良いと感じた報告会でした。

	テーマ	発表者
1	嵐山学園を見学して	太田夏子 木崎聖捺
2	かーむ・発達障害支援センターを見学して	須永貴之
3	筑後いずみ園 のぞえの丘病院を見学して	土屋 麗
4	接遇研修を受講して	加藤稜久
5	Vineland-IIを受講して	阿部 萌

## 各寮の様子 学園は雪が積もらなかったなあ 冬編

### かりん寮



いつもワイワイと明るい笑い声が飛び交うかりん寮です。

今回は、年末年始のイベントを中心にご紹介

します！

ハロウィンが終われば気持ちはクリスマス。

かりん寮の皆は「今年はどんな楽しい日になるんだろう！」と心待ちにしていました。

待ちに待ったクリスマスイベントは、児童たちも職員もサンタの衣装に身を包みワクワクが膨らみます。そこになんと、サプライズプレゼントが現れたのです！エルサ王女に扮する齋藤次長とアナ王女に扮する齋藤(奈)課長の登場に、みんなの興奮も最高潮です！！一人一人プレゼントを受けとると弾ける笑顔を見せてくれた児童たち。忘れられない特別なクリスマスになりました。

2025年を迎えると、お正月らしい遊びを日替わりで楽しみました。福笑いでは様々な表情に笑いが止まりません。書き初めでは、それぞれの思いを筆に乗せて、集中して半紙に向かう姿が印象的でした。そして、風のない冬晴れの日には「桜木神社」に初詣に行きました。1.5kmほど歩いた先の大きな鳥居をくぐり厳かな雰囲気のある参道を進みます。気がつくとも口数が少なくなっている児童たち。順番にお賽銭を納め、それぞれに手を合わせていました。

今年も、笑顔いっぱい

毎日を過ごせますように！

太田 夏子



## けやき寮

けやき寮では、改修工事が始まるのにあわせて、12月6日（金）に児童1名がくぬぎ寮へ、2名がどんぐり寮へ異動し、4名がウィズに引っ越しをしました。新しい場所での生活が始まって2週間ほどで、冬休みに入りました。

冬休みに入っすぐ、クリスマスを迎えました。



「僕たちがウィズに引っ越したってサンタさんに伝わっているかな。」と心配する児童もいま

ましたが、いつも通りサンタさんがプレゼントを持ってきてくれました。クリスマスのお祝いメニューは、みんなが大好きなマックとケーキにしました。近くのお店まで、車に乗って皆で受け取りに行きました。帰りの車内はポテトのいい匂いが漂っていて、早く食べたい気持ちでウィズに戻りました。

12月26日は、クッキング活動に参加しました。給

食の人気メニュー「ババロリア」に、クラッシュゼリーとホイップクリームをトッピングして食べました。電子レンジであたためたり、大きな保冷剤をあててゼリー液を冷やしたりする工程に興味津々でした。できあがったスペシャルババロリア、美味しくってあっという間に完食する児童もいれば、ゆっくり味わって食べる児童もいました。

1月1日、児童全員が元気に新年を迎えることができました。学園内に現れた秩父神社に早速お参りに行きました。どんぐりのお賽銭やおみくじが大人気で、冬休みの間度々訪れました。

他にも、コンサートで生演奏に触れたり、福笑いをしたり、園内映画祭に出かけたりと、楽しい思い出をたくさん作った冬休みでした。

島田 由起子



## どんぐり寮

寒気の中にも早春の息吹が感じられる季節となりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。今年も厳しい寒さを感じる冬でしたが、どんぐり寮では元気いっぱい笑顔で溢れていましたので、様子をお



伝えさせていただきます。

11月には入間わかき高等特別支援学校にて文化祭がありました。

どんぐり寮には当校へ通学している児童が6名在籍し、それぞれの児童が心待ちにしている様子がみられました。1年生は初めての文化祭で期待と緊張を抱え、2年生は昨年度の経験を活かしながら参加できたのではないのでしょうか。3年生は高校最後の文化祭に寂しさを感じさせる声もありましたが、終わった後には「楽しかったよ！」と笑顔で職員へお話してくれました。周囲の人と協力しながら楽しむという貴重な体験を、今後の人生でも活かしていただきたいと思います。

12月は寮内でクリスマス会を開催しました。大人になることへの憧れを抱いている児童がたくさんいますが、クリスマスのイベントだけは童心に帰るのでしょうか。ケーキやプレゼントなど、いつもとは違う特別な日に心を躍らされている姿がみられまし

た。給食でもチキンやピザなどを食べ、きっと大満足な1日になったかと思います。



1月になると、多くの児童が職員へ新年の挨拶をしてくれました。初詣では、学園近郊にある神社へお参りに行く児童もいましたが、外出が苦手な児童へ配慮し、学園内に「ちちぶ神社」を仮設しました。立派

な鳥居の前で新年の挨拶をしながら、正月の気分を味わえたのではないのでしょうか。

まもなく春を迎え、新年度が始まりますが、今年度に体験できたことを活かしながら、児童一人ひとりのペースで成長していただけると幸いです。

清水 康平



### くぬぎ寮の冬休み

くぬぎ寮では、寮舎の老朽化に伴いお湯が出ず、寮での入浴困難となりそうなアクシデントに見舞われましたが、他寮、学園職員の協力の元、温かいお風呂に入れる日々を過ごすことができました。また、けやき寮の寮舎改修工事に伴い、12月にけやき寮から1名の児童を受け入れ10名の児童で寒い冬に突入しました。

冬休みには寒い冬でも心から暖まれるようなイベントを楽しみました。クリスマス会では、ゲームコーナーとして輪投げ、ボールビンゴ、ボーリングコーナーを設置。みんなが好きなゲームコーナーを選択し、失敗の「あー」や成功の「わあー」という声の賑やかさも楽しむことができました。クリスマスメニューとしては、ステーキライス&クリスマスには欠かせないチキンを頬張りました。ニクニクし



く、ワクワクしたクリスマス会でした。

年末年始には体調を崩してしまう児童もいましたが、無事に新年1月1日を迎えることができました。新年の集いでは、獅子舞と一緒に戯れパフェ作り、おせちを食べて、各自新年の抱負を抱きながら過ごしました。また秩父学園に出現した秩父神社に参拝に行き、どんぐりの実のお賽銭、大当たり（職員との握手券）が入ったおみくじを楽しみました。園外の桜木神社にも参拝に行き、年明けの冬休みは園内を参拝しながら散歩をしたり、グラウンドで遊んだり元気に過ごしました。冬休み明けには冬休みに蓄えたパワーで寒空のなか学校に登校しています。

3月には、進級や卒業を迎える方もいます。暖かな春を心身共に穏やかに迎えられようみんなでお楽しみを送っていききたいと思います。



中田 竜太





# 熊澤海道の「向かい風 反対向けば 超追い風！」

## 「多職種連携ってしたいよね」

国立障害者リハビリテーションセンター病院 歯科医師 熊澤 海道

気づけば2025年です。本年も何卒よろしくお願ひ  
します。

(今回から、タイトルを変更しました)

さて今回は、過激な内容となりますので閲覧注意  
です。いきなりですが、「多職種連携に必要なのは会  
議じゃない(多分)」って最近思っています。会議は  
必要です。が、報告事項だけとか決定事項の依頼み  
たいな感じで長時間にわたる会議の場合、情報の「共  
有」はできても職種の「連携」はできないと思っ  
ています。しかも「共有」できるならよいですが「な  
んだか良くない雰囲気になっちゃった」なんてご経  
験がある方もいるかもしれません。

究極理想形でお話をいたしますが、熊澤が多職種  
連携で必要だと考えるのは、まず会議日程を決める

ことではなく、一緒にやりたいことがある時に「ねえ  
ねえ、あのさ」と自然に話し始めることができる関  
係性を作ること！だと思っています。そうなんです、  
この「関係性を作る！」っていうのは支援を始める  
時、一番最初に対象となる方と行うことと一緒になん  
です！(←ここ激熱)。そんな「関係性」を作れたら  
お互いが横に「愚痴」を言い合うではなく、方向性  
が同じ「意見」を上(既存の制度やシステムなど)  
に向かって一緒に発信する連携が自然にできるん  
じゃないかと本気で思っています。なので今回は  
言っちゃいます、「多職種連携ってあえて言うのやめ  
ませんか？」と。きっとみんな想いは一緒に自然にで  
きるはずのことだから、なんてことない話をすると  
ころから始めて行こうぜ！と思う今日この頃です。

### ❖入所児童の動き

12月に男児1名、2月に女児1名、男児1名が埼玉県内に移られました。

### 行事予定

- 3月5日 事例報告会
- 3月11日 入間わかくさ高等特別支援学校卒業式
- 3月12日 所沢特別支援学校小学部卒業式
- 3月13日 所沢特別支援学校中学部卒業式
- 3月14日 職員研修
- 3月23日 本芝房フレンドリーコンサート

### 編集後記

早いもので、令和6年度最後の発刊となりま  
した。今年度の「ちちぶだより」はいろいろと  
変化しました。多々ご意見・ご感想はあるやも  
しれませんが、唯々よい物をとの思いでありま  
した。

ですので、来年度も、いろいろ変えていく所  
存でございます。

お楽しみに！

(仲)



発行日 令和7年3月25日

発行 国立障害者リハビリテーションセンター自立支援局 秩父学園

住所 埼玉県所沢市北原町860 TEL 04-2992-2839 FAX 04-2995-2253

chousa-chichibu@mhlw.go.jp

## 《秩父学園児の歌》



一、わかばゆれ

ひかりかがやく

むさしのに

のびゆくわれら

ちちぶがくえんじ

われらわれら

ちちぶがくえんじ

二、ふじのみね

たかくそびえて

みそらすみ

いそしむわれら

ちちぶがくえんじ

われらわれら

ちちぶがくえんじ

